

平成31年4月18日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査結果について、本市の概要をお知らせします。なお、本調査には、全ての米子市(学校組合)立小・中学校が参加しています。

1 全国の状況

本調査は、小学校では、国語・算数の2教科、中学校では、国語・数学・英語の3教科で、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象として実施されました。各教科においては、本年度より知識・活用を一体的に問う問題になりました。全体的に正答率の低い地域と全国平均の差は小さく、学力の底上げ傾向が見られました。今年度初めて実施された英語では、特に「話すこと」の領域の正答率が低く、課題があることが分かりました。また、併せて実施された児童生徒質問紙では、自己肯定感を問う質問で肯定的に回答した児童生徒の割合が増加傾向にありました。

2 米子市の状況

※ 各教科の全体の正答率(市と県)は整数値での公表となっています。よって全国平均値との比較は、1ポイント以上の差をもって「上回る」「下回る」と表現しています。

(1)教科の概要

〈小学校6年生〉

【国語】

- ・全体として、全国平均を下回る状況でした。
- ・「書くこと」の領域では、全国平均をやや上回る状況でしたが、それ以外の領域では、下回っています。
- ・特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域に課題が見られました。

【算数】

- ・全体として、全国平均とほぼ同等の結果でした。
- ・「図形」の領域では、全国平均と同値でしたが、それ以外の領域ではやや下回る状況でした。

【国語】

区分	国語	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		62	63	63.8
領域	話すこと・聞くこと	70.6(C)	71.9	72.3
	書くこと	55.3(B)	55.5	54.5
	読むこと	78.9(C)	80.8	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	50.4(D)	52.1	53.5

【算数】

区分	算数	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		66	66	66.6
領域	数と計算	62.5(C)	62.8	63.2
	量と測定	51.5(C)	51.1	52.9
	図形	76.7(B)	77.7	76.7
	数量関係	67.0(C)	67.3	68.3

※米子市の平均正答率は、全国平均との差が+3ポイント以上をA、全国平均値以上+3ポイントまでをB、全国平均を下回り-3ポイントまでをC、-3ポイントを下回るものをDで表記しています。
※全体の平均正答率(市・県)は、小数点以下を四捨五入して、整数で表しています。

<中学校3年生>

[国語]

・全体として、全国平均とほぼ同等の結果でした。
 ・「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均を上回る状況でした。それ以外の領域では、全国平均をやや下回る状況でした。

[数学]

・全体として、全国平均を上回る状況でした。
 ・「資料の活用」の領域は、全国平均を大きく上回る状況でした。また、「数と式」「関数」の領域も全国平均を上回る状況でした。

[英語]

・全体として、全国平均を上回る状況でした。
 ・「話すこと」の領域では、参考値ながら、全国平均を大きく上回る状況でした。

【国語】

区分	国語	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		73	73	72.8
領域	話すこと・聞くこと	71.7(B)	70.9	70.2
	書くこと	82.4(C)	82.7	82.6
	読むこと	71.6(C)	71.5	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.4(C)	67.8	67.7

【数学】

区分	数学	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		61	60	59.8
領域	数と式	64.4(B)	63.8	63.8
	図形	71.7(C)	71.6	72.4
	関数	43.3(B)	40.7	40.8
	資料の活用	61.6(A)	58.5	56.3

【英語】

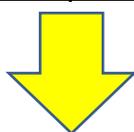
区分	英語	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		57	54	56.0
領域	聞くこと	68.1(B)	65.9	67.9
	読むこと	56.6(B)	54.9	55.6
	書くこと	45.9(B)	43.0	45.8

区分	英語	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
領域	話すこと(参考値)	35.1(A)	/	30.8

※米子市の平均正答率は、全国平均との差が+3ポイント以上をA、全国平均値以上+3ポイントまでをB、全国平均を下回り-3ポイントまでをC、-3ポイントを下回るものをDで表記しています。
 ※全体の平均正答率(市・県)は、小数点以下を四捨五入して、整数で表しています。
 ※英語「話すこと」に関しては、他の領域と実施人数が違うことから、全体の正答率には含まれていません。
 ※英語「話すこと」の正答率について、全国は参考値として公開されたもの、市は各校の正答率をもとに算出した数値を記載しています。

(2)本年度、中学校3年生の平成28年度(小学校6年生時)と令和元年度(中学校3年生時)の平均正答率の比較

平成28年度(小学校6年生時)の平均正答率			
	米子市	全国	差(米子市-全国)
国語A	73.0	72.9	+0.1
国語B	56.9	57.8	-0.9
算数A	74.8	77.6	-2.8
算数B	45.9	47.2	-1.3



令和元年度(中学校3年生時)の平均正答率			
	米子市	全国	差(米子市-全国)
国語	73	72.8	+0.2
数学	61	59.8	+1.2

[主な傾向]

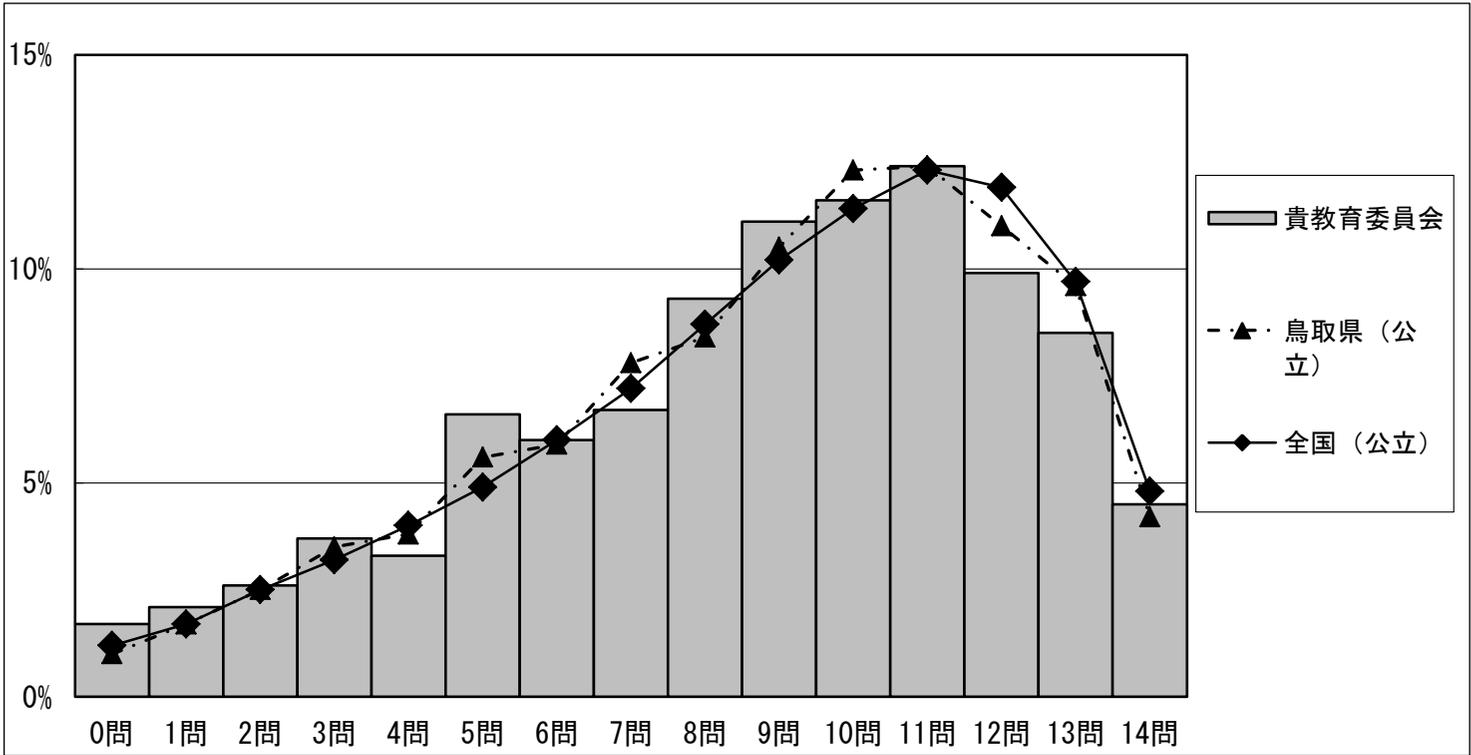
○令和元年度(中学校3年生時)の平均正答率の差(米子市-全国)は、平成28年度(小学校6年生時)のそれと比べると以下のような状況でした。ただし、今年度より各教科の調査問題が統一されたこともあり、単純には比較できないことを申し添えます。

- ・国語Aでは、わずかにプラス、国語Bではマイナスの状況でしたが、中学校国語ではプラスになりました。
- ・算数A、Bともにマイナスでしたが、数学では、プラスの状況になりました。

(3) 正答数分布に見る本市と全国との比較

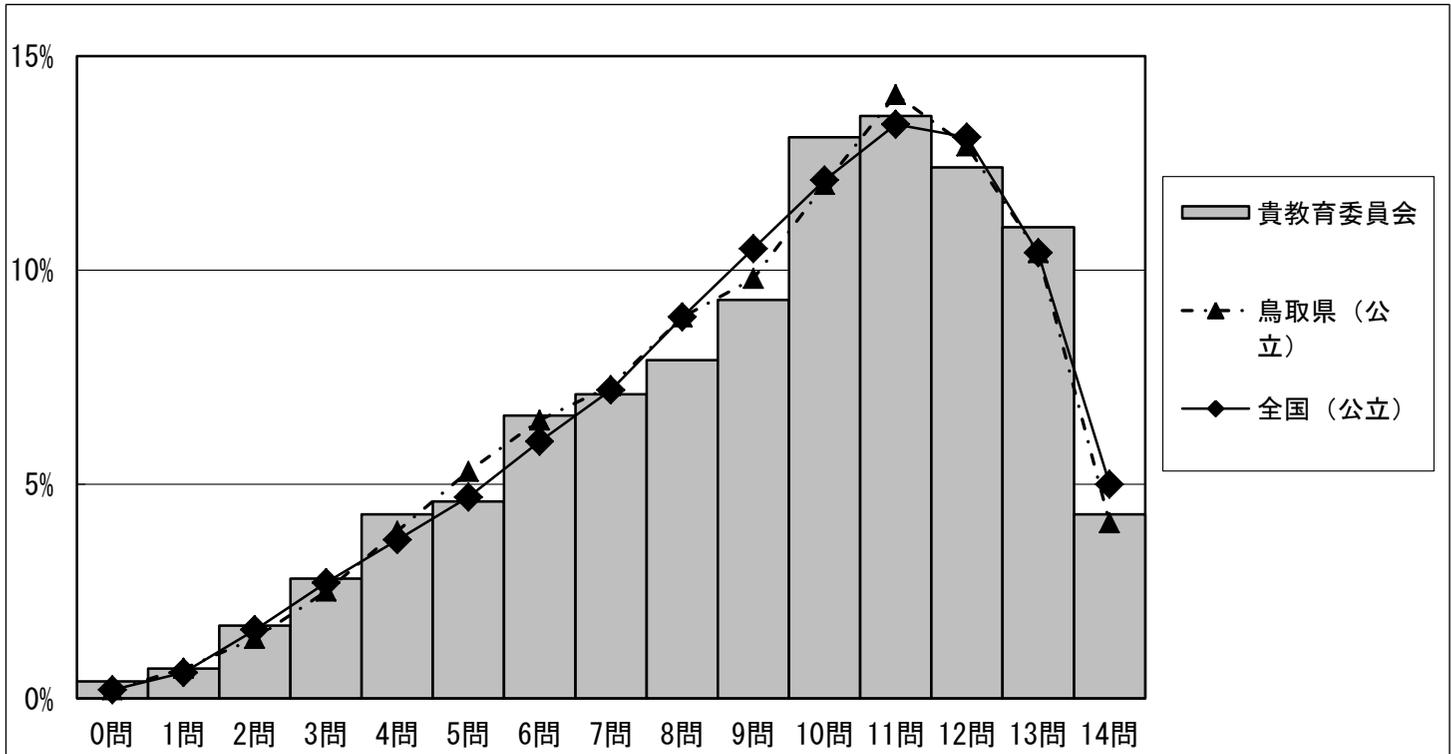
正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

【小学校6年 国語】



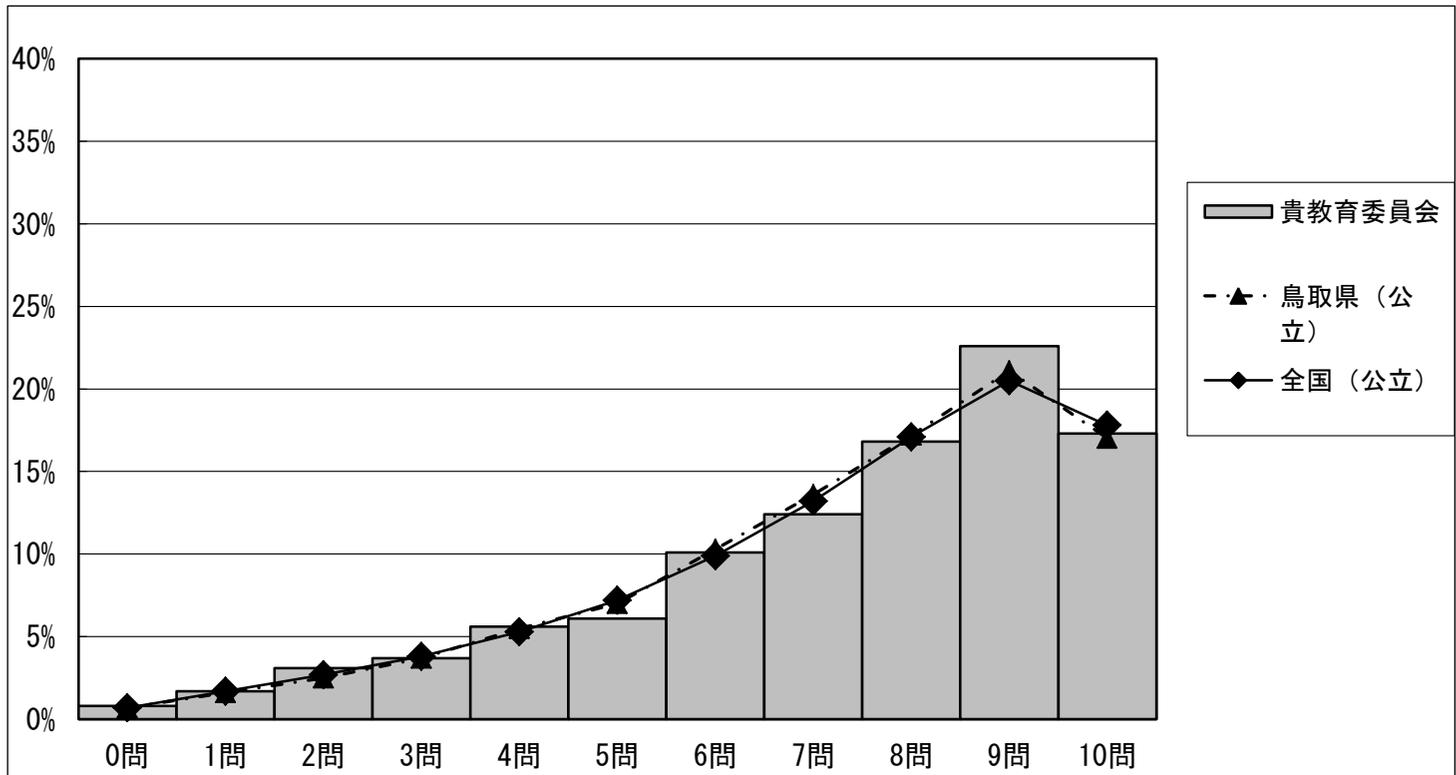
※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
 ・正答数の分布は、全国と比べ、本市が12問以上正答した児童の割合が低く、5問以下の割合が高い状況でした。

【小学校6年 算数】



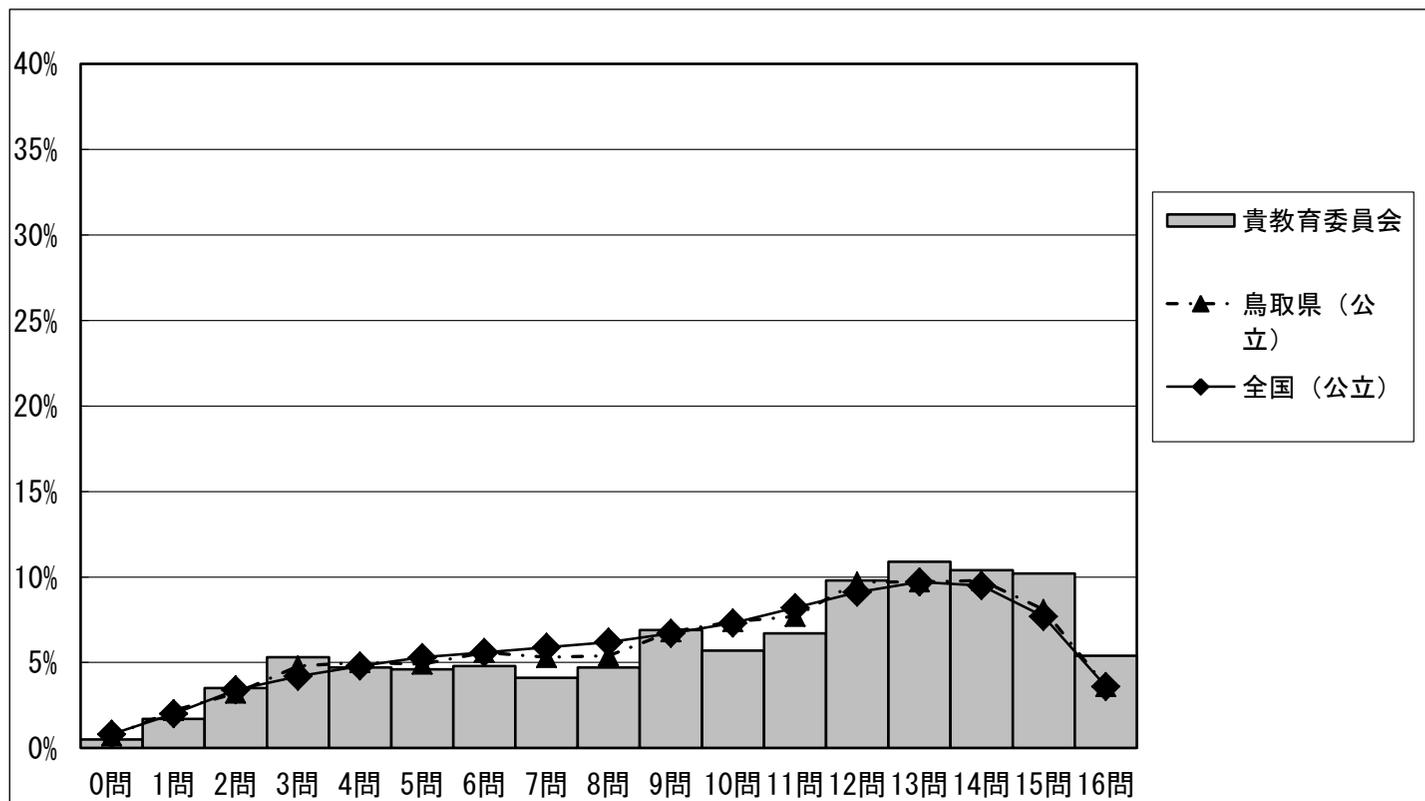
※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
 ・正答数の分布は、全国と比べ8問～9問の正答数の割合が低い状況でした。

【中学校3年 国語】



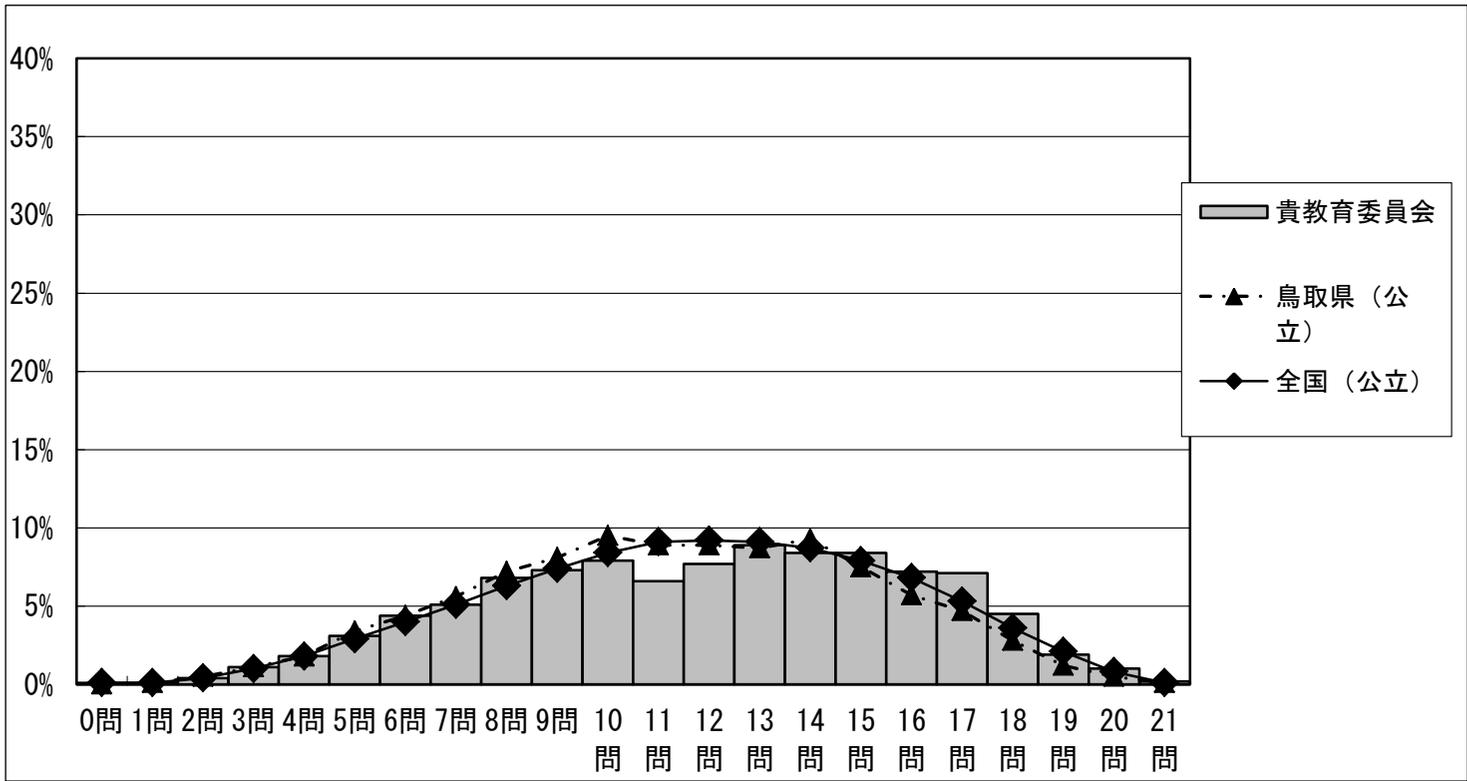
※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
 ・正答数の分布は、全国と比べ9問正答した児童の割合が高い状況がでした。

【中学校3年 数学】



※平均正答率は、全国平均をやや上回っています。
 ・正答数の分布は、全国と比べ11問以上正答した児童の割合が高く、11問以下の児童の割合が低い状況がでした。

【中学校3年 英語】



※平均正答率は、全国平均を上回っています。
 ・正答数の分布は、全国と比べ15問以上正答した児童の割合が高く、10～12問正答した児童の割合が低い状況でした。

(4)子どもたちの学習や生活の様子 — 児童生徒質問紙調査より —

＜小学校6年生＞

○「自分にはよいところがあると思いますか」という質問で、肯定的な回答をした児童が、全国平均と比べて高い割合でした。
 ○学級のみinnで話し合って決めたことなどに協力することについて問う項目では、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均と比べ高い状況でした。
 ○国際理解について問う項目では、肯定的な回答をした児童が、本市昨年度平均よりも高い割合でした。
 ○ほとんどの児童が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っており、本市経年結果でも年々その割合が高くなっています。
 ○ほとんどの児童が、人の役に立つ人間になりたいと思っています。
 ○ほとんどの児童が、朝食を毎日食べています。
 ○ほとんどの児童が、算数や国語の勉強は大切だと思っています。
 ○ほとんどの児童が、算数や国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っています。
 ●家庭学習の取組について問う質問で、肯定的な回答をした児童の割合は、全国と比べて下回りました。
 ●新聞を読んでいる(週に1～3回以上)児童の割合が全国平均よりも高いですが、22.3%にとどまっています。
 ●算数が好きかどうか問う質問では、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均と比べて低い割合でした。
 ●国語・算数の解答時間が十分かどうか問う質問で、肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均と比べて低い割合でした。

＜中学校3年生＞

○数学が好きという生徒の割合が、全国と比べて高い割合でした。
 ○読書が好きという生徒や週に1回以上図書館に行く生徒が、全国と比べて高い割合でした。
 ○話し合い活動を通して思考を深めたり広げたりする取組を問う質問で、肯定的な回答をした生徒の割合は、本市経年結果と比べて高い割合でした。
 ○地域貢献について問う項目では、肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均よりは下回ったものの、本市経年結果と比べて高い割合でした。
 ○ほとんどの生徒が、学校の規則を守ろうとしています。
 ○ほとんどの生徒が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っており、本市経年結果でも年々その割合が高くなっています。
 ○ほとんどの生徒が、人の役に立つ人間になりたいと思っています。
 ○ほとんどの生徒が、朝食を毎日食べています。
 ○ほとんどの生徒が、国語・数学の解答時間が十分かどうか問う質問で、肯定的な回答をしています。
 ●新聞を読んでいる(週に1～3回以上)生徒の割合が全国平均よりも高いですが、15.4%にとどまっています。
 ●学校の授業以外の学習時間を問う質問で、2時間以上と回答した生徒の割合が、全国と比べて低い割合でした。
 ●英語の解答時間について、肯定的な回答をした生徒の割合が、全国と比べて低い割合でした。

【全国と米子市との比較で特徴的な評価項目】

肯定的な評価項目(全国との差が+5ポイント以上)	
小学校	・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。【+6.1】 ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。【+7.4】 ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。【+5.0】
中学校	・昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらいいきますか。(週に1回以上)【+10.0】 ・学校の部活動に参加していますか。【+9.5】
否定的な評価項目(全国との差が-5ポイント以下)	
小学校	・家で自分で計画を立てて勉強していますか。【-5.4】 ・算数の勉強は好きですか。【-6.5】 算数の授業の内容はよく分かりますか【-5.7】 ・解答時間は十分でしたか。(国語)【-9.8】
中学校	・学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(2時間以上)【-5.5】 ・普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか。(2時間以上)【-14.6】 ・国語の授業の内容はよく分かりますか。【-5.4】 ・解答時間は十分でしたか。(英語)【-5.3】

3 結果を受けて

<学校では>

<小学校6年生>

国語では、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にして書く力について、これまでの指導の成果が現れていました。しかし、「知識」に関する内容においては、文中の漢字を正しく書くことや、接続語を使って内容を分けて書く問題に課題が見られました。また、「活用」に関する内容においては、目的に応じて、読んだり、話したりすることに課題が見られました。

算数では、式の意味を理解しているかを問う問題において、これまでの指導の成果が現れていました。しかし、2つの棒グラフから、1人当たりの水の使用量について分かることを選ぶ問題や、減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるとどのようになるか記述する問題に課題が見られました。

国語・算数ともに、その勉強の大切さや将来役に立つ学習だと感じている児童が多くいることがわかりました。

以上のような状況を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するために、一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じたきめ細かな指導を充実させる必要があります。あわせて、既習内容を活用したり、新たな課題を探究したりする学習を通じて、知的好奇心を喚起し、学習のおもしろさを感じたり、自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に取り組んだりできるよう、指導の手立てを工夫していくことが必要です。また、日頃の学習から、解答を求めるだけでなく、その根拠や自分の考えをしっかりと表現する力を育てていく必要があります。そのために、友達と解決方法を吟味・検討するといった対話的な学習も推進していきます。

<中学校3年生>

国語では、話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えをもつ問題や、書いた文書を読み返して、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題において、これまでの指導の成果が現れていました。しかし、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ問題や、封筒の書き方を理解して書く問題等に若干の課題が見られました。

数学では、「知識」に関する問題においても、「活用」に関する問題においても、概ね指導の成果が現れています。しかし、事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明する問題や、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する問題等に若干の課題が見られました。

英語では、「知識」に関する問題においても、「活用」に関する問題においても、概ね指導の成果が現れています。しかし、まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する問題や、聞いて把握した内容について、適切に応じる問題等に課題が見られました。

以上のような状況を踏まえ、今後も基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するために、一層の習熟が図れるような繰り返しの指導、個に応じたきめ細かな指導を充実させるとともに、既習内容を活用したり、新たな課題を探究したりする学習を通じて、知的好奇心を喚起し、学習のおもしろさを感じたり、自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に取り組んだりできるよう、指導の手立てを工夫していくことが必要です。また、問題解決的な学習過程の中で、生徒同士の対話的な時間をこれまで以上に保障しながら、自分の考えを論理的に説明する力を一層育てていく必要があります。また、英語の学習においては、決められた英文を話すだけでなく、状況や相手に合わせて、自分で考えて発言する力をつけるための対話的な学習を推進していきます。

<小・中学校共通>

○家庭と連携をしながら、家庭での学習習慣や生活習慣の確立に努める必要があります。

○児童生徒の自己肯定感がさらに高まるよう、学校、家庭、地域が一体となり、成長を支援していくことが大切です。

○単年度の結果のみならず、これまでの13年間の経年結果をもとに、各学校の課題の傾向を明らかにし、今後の取り組みに生かしていくことが必要です。

○小・中学校が児童生徒の学力や生活習慣における課題の傾向を明らかにし、9年間の内容を系統化し、一貫した指導を行っていけるよう、小中一貫教育を推進していきます。

<家庭では>

児童生徒の学力の定着を図るために、以下のような取り組みをお願いします。

○基本的な生活習慣を身につけさせましょう。

→あいさつや食事、睡眠、朝食の摂取など規則正しい生活リズムを身につけると、児童生徒の本来持っている力が高まります。

○家庭で学習する習慣を定着させましょう。

→中学校区で配布されている家庭学習の手引きを参考に、家庭で学習する時間(目安)を見直してみましょう。

→小学生は、学年段階に応じて宿題や授業の予習・復習などに主体的に取り組むこと、中学生は、計画を立てて主体的に学習することで、幅広い学力が定着します。

○新聞を読む習慣を身につけさせましょう。

→学校の図書館に、児童生徒を対象とした新聞などもあります。世の中の動きがわかり、社会的なものの見方や考え方が育まれるとともに、語彙力や文章表現力が身につきます。

○日常生活の中で社会のルールやマナーを身につけさせましょう。

→思いやりの心や社会性などの豊かな心を育むことができます。

○家庭での読書をさらに勧めましょう。

○地域の行事やボランティア活動に積極的に参加させたり、郷土の自然や文化にふれる体験をさせたりしましょう。

これまでの13年間の調査結果から、引き続き、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、知識・技能等の活用を図る指導の充実が大切であることがわかりました。また、自己肯定感や規範意識が高い児童生徒、各教科の学習に関心意欲が高い児童生徒の学力が高い傾向にあることもわかりました。

米子市教育委員会としては、この13年間の調査結果と他の調査結果を関連させて考察した上で、今後も児童生徒の学力向上に向けて取り組んでいきます。また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要ですので、今後さらに学校と家庭とが連携できるような取り組みを進めていきたいと考えています。